



新・みやぎ・シー・メール第14号

発行：平成30年12月20日

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

旬を迎えたババガレイ(ナメタ)

環境資源チーム

年越し、正月に欠かせない子持ちガレイ

ババガレイは北海道太平洋岸、三陸、常磐にかけて分布が多いカレイの仲間であり、この地方では大変重要な水産資源です。三陸地方ではナメタ(滑多)と呼ばれ、粘液が多く、英名でも Slime flounder (ぬるぬるするカレイ)と呼ばれています。宮城県や岩手県では子持ちの雌は年越しや正月に子孫繁栄の縁起物として食べられています。

生態

体型は細長い楕円形で口が小さく、大型のものは体高が高く、肉厚になります(図1)。産卵期は正月にあると思われがちですが、産卵の最盛期は3~4月です。産卵期になると北海道太平洋岸に分布するババガレイが三陸・常磐に南下回遊することが知られており、12月に北海道から宮城県に入荷する大型のババガレイは南下直前の群と考えられます。産卵期には三陸常磐海域の表層に浮遊性の卵が広く分布します。成長は遅く、煮付けに適した1kg以上(全長40cm以上)になるには7~8年を要すると推定され、大型の雌は大変貴重です。



図1 店頭に並んだババガレイ

変動する漁獲量

本種は漁獲変動が激しく、青森太平洋側~千葉県太平洋側の漁獲量は1970年代から1990年代中頃にかけて長期的な減少傾向にありました。最も漁獲量が少なかった昭和の末から平成初期の年

には小売価格でキロ当たり2万円以上まで高騰しました。1990年代中頃に最低水準となったババガレイの漁獲量は1995年から15cm前後の小型ババガレイが漁獲されるようになり、以降、毎年良好な発生が継続し、急速に漁獲量は回復しました(図2)。2003年から東日本大震災が起こった2011年にかけて再び減少傾向となりましたが、2014年には過去最高の553トンとなり、以降漁獲量は300~400トン台の高位を維持しています。

イワシ類のように底魚類も海洋環境によって漁獲量変動することが知られています。ババガレイは冬が暖かく(寒く)、産卵期の春季に親潮が弱い(強い)時代に増加(減少)する傾向があります。2006年以降、冷水が強い傾向にありましたが、2015年以降、再び暖水が強い傾向にあります(図3)。今後、ババガレイの発生にとって有利な環境が継続する可能性があります。

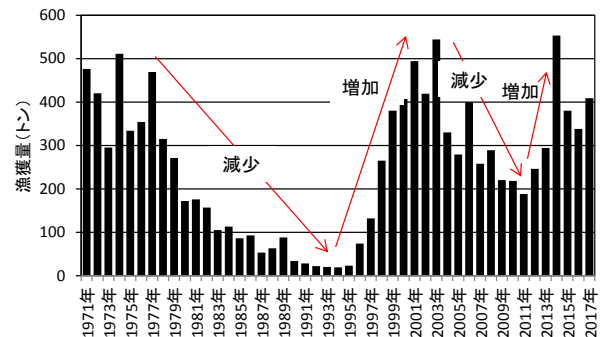


図2 沖合底曳網の漁獲量(青森太平洋側~千葉県:東北区水産研究所データ)

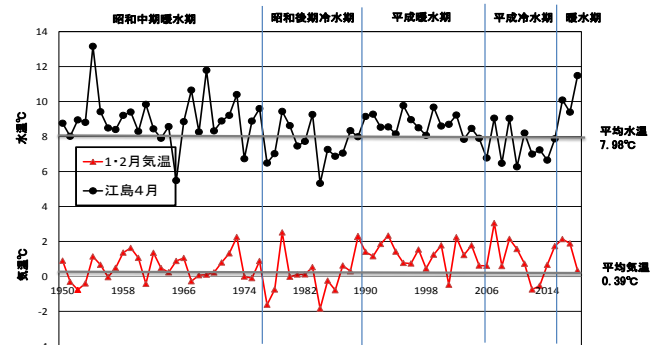


図3 江島4月平均水温と石巻1,2月平均気温

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>